

ナースインホームひまわり

症 例 概 要 利用者： 70代後半 女性 要介護4

利用期間： 令和5年4月～現在

疾患： 腰部脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、大脳皮質基底核変性症

経過： 令和4年末から、転倒を繰り返すようになり、N病院を受診。検査の結果、大脳皮質基底核変性症と診断された。診断前は、デイサービスのみの利用だったが、この疾患の発症により、ご家族の介護負担が大きくなり、デイサービス利用のみでの在宅生活継続は難しくなった。今後、病状が進行していくことも踏まえ、看護小規模多機能型居宅介護事業所利用の方向となる。ご自宅から近いこともあり、令和5年4月、当事業所登録となる。

内 容

令和4年末より、転倒することが増え、今後も病状の進行が予測されることから、令和5年4月、看多機である当事業所の利用を開始。ご家族は、発症以降、表情や感情の表出が乏しくなったことを気にされていました。初めは、自分の感情を表出されることは少なく、レクリエーションにお誘いしても断られることが多くありました。しかし、職員や他利用者さんとの交流を重ねるうちに、笑顔、ご自分から声をかけることも多くなり、今ではムードメーカーのような存在になっています。リハビリにも、積極的に参加されていましたが、徐々に病状の進行も目立つようになりました。介助量も増え、帰宅できる日数は減ったものの、週1回の帰宅を楽しみに明るく過ごされています。そんな中、私たちが取り組んでいる「夢叶えるプロジェクト」でお話を伺うと、密かな願いを教えて下さいました。それは、「お墓参りに行きたい」「震災前に住んでいた場所を見て、親戚に会いたい」「不自由な身体になつても頑張っている姿を見てほしい」という想いでした。ご家族や職員みんなで準備を整えましたが、一度目は出発前日に体調を崩し、涙ながらに断念。10月、今度はご本人へのサプライズとして内緒で準備を進めました。当日は看護師や娘さん、現地で合流された息子さんと一緒に、一昨年亡くなられた旦那さんのお墓へ。その後、震災前の自宅跡や思い出深い漁港を巡り、ご親戚の食堂へ向かいました。久々に会う方々との再会に、感極まって涙を流され、その後の食事会では昔話に花を咲かせ、みんなが笑顔になれる素敵な時間を過ごされました。ご本人の大満足な表情、ご家族様の喜ぶ姿を見て、私たち職員も心からの幸せをいただきました。病気によってできないことが増える現実はありますが、「できないから諦める」ではなく、「どうすればできるか」と一緒に考えること。これからも、その方らしい毎日を支えていけるよう、心を込めてサポートしていくたいと思います。

関連職種

看護師：体調管理

訪問看護師：内服管理

介護士：生活補助、当プロジェクトのための各種調整